

## 「研究発表Ⅱ」

学校名 県立逗子高等学校PTA

研究テーマ 「～楽しくなければ続かない～ LET 'S ENJOY PTA」

### 1 はじめに

集まるところに笑い声あり、逗子高PTAは本当に仲がよく、いつもワイワイガヤガヤにぎやかに活動しております。

無理なく各自の得意な分野で少しずつ力を出し合い、楽しみながら行う活動をご紹介します。

### 2 学校紹介

「ああ秀麗の自然境、湘南の美の凝るところ」と校歌に歌われている逗子高校は、神武寺山を背にした閑静な山峡に建っています。

そんな恵まれた自然環境の中で、穏やかでのびのびとした生徒が育つという校風が、大正11(1922)年、逗子町立実科高等女学校として創立、今年で97年目を迎える今もしっかりと受け継がれています。豊かな自然を教育にも取り入れ、トレイルランやビーチクリーンなどを行い、さらに地域の子どもたちとのふれあいの場を持つなどコミュニティスクールとしての特色もあります。

部活動が盛んで、運動部14(335人)、文化部12(297人)、加入率は全体の72%に上ります。最近の活躍として、陸上部がインターハイに出場しています。また、学校行事も盛んで、体育祭や、文化祭(グリーン祭)、合唱コンクールなどがあり、PTAでお手伝いもしています。

### 3 PTA紹介

運営委員会は、会長、副会長3名 書記1名 庶務2名 会計1名の8名、学校から校長・副校長・教頭・事務長・教員3名の7名と各委員会の委員長、副委員長で構成されています。

常置委員会は、学年委員会、広報委員会、交通安全委員会 があり、それぞれが楽しく活動しています。

学校行事へのサポートとしてスポーツフェスタでのお水の配布や保護者受付、合唱コンクールでの受付などもみんなで取り組んでいます。

PTA年間最大の取り組みは、グリーン祭での「おばちゃんや」出店です。数ヶ月前から準備を始め、二日間の一般公開における食販をにぎやかに楽しく行います。

### 4 PTA活動について

PTA活動は、「やらされる」のではなく、「自分たちが楽しめる」活動でなければ続きません。そこで、それぞれの委員会のお楽しみポイントをPRしています。

広報委員会のお楽しみポイントは、やはり学校行事で一番いい位置で我が子を撮影することができることです。また、取材のためバスツアーへの優先参加などお徳感が盛りだくさん。もちろん、和気あいあいと紙面づくりもしています。

交通安全委員会のお楽しみポイントは、委員さんたちから学校行事や受験の情報、地域の様子まで様々な情報を得られることです。それをもとに親子の会話も増え、親同士の友達も増えていきます。

学年委員会のお楽しみポイントは、少ない活動回数なので仕事との両立も問題なく、LINEでしっかり情報共有できることです。三者面談以外でも先生から子どもの様子を聞くことができるのも大きなポイントです。

季節ごとの取り組みとしては、年2回のバスツアーがあります。毎回50名の定員はキャンセル待ち出るほど盛況で、7月は亀戸天神と花王亀戸工場見学とホテルバイキング、11月は劇団四季「アラジン」の鑑賞とクルーズクルーズ銀座のランチバイキングに行く予定です。

毎年秋に行う落ち葉掃きは発展的に変更し、今年生徒、先生と協力して老朽化した部室棟のサビ取りとペンキ塗りに取り組みます。

番外編としまして、年数回の懇親会には毎回ほぼ全員が参加し、締めは校長先生の校歌独唱で終了するという定番の流れが出来上がっています。

## 5 最後に

無理なく楽しく続けられるのは・・・

### ①まず、自分が楽しむこと

仕事や家事と無理なく両立できる適度なペースで得意なことから手伝い、多感な年頃の子どもと共通の会話を増やす

### ②次に親同士の裾野拡大

無理せず楽しむ秘訣を周りの保護者に絶え間なく伝え、学校に気軽に来れるPTAの数を地道に拡大する

### ③学校や地域との連帯感

先生と共に校外に出ることで地域を味方に、より深く楽しむ

この3つがポイントです。

様々な活動を通じて、より親しみを持っていただけるよう、これからも続けていきたいと思えます。

## 6 質疑応答

Q この楽しい雰囲気は伝統的なものなのでしょうか？

A 歴代和気あいあいと無理なく活動していると聞いています。



## 【助言者講評】

県立津久井浜高等学校 校長 小田 尚美

○年々バージョンアップしている様相の寸劇で始まる発表を楽しみにしていた。今回は実演販売というテーマで、森会長以下役員の皆さんの見事なチームワークと達者な演技力で、解りやすく楽しい、期待を裏切らない内容に引き込まれた。

○逗子高はスポーツフェスタ（現体育祭）、合唱コンクール、文化祭等の学校行事や部活動が盛んなため、行事毎に多岐にわたるサポートがPTAに求められるが、「楽しくなければ続かない」という暗黙の了解の下で、役員一人ひとりが無理なく、しかも楽しみながら活動をすすめ、学校教育を支える土台となっている印象を持った。

○今回の発表内容の全体評価を100点満点とするならば98点くらいであろうか。体育祭で、生徒たちに飲料水を配布する際に「ありがとう」という言葉を発するまで水を渡さない、というエピソードが少しひっかかったから。何かを受け取ったあとで礼を言うのが自然な行為だと考えるので、先に水を渡してから礼を言わせるようにすれば良いのではないかと感じた。

○PTA活動のお楽しみポイントとしてプラス面をすくいとり、良い形でのコミュニケーションを心から楽しみ、日常的に和気藹々と活動している様子が伝わってきた。親同士の裾野を拡大し、学校、生徒たち、さらには地域との連帯感を高め、PTA活動を掛け値なく楽しめる組織づくりの手本としたい。